



京都大学文学研究科 グローバル COE 「親密圏と公共圏の再編成を
めざすアジア拠点」

学会発表渡航支援報告書

(ふりがな) 氏名	てい らくせい 鄭 楽静	所属・職名 (社団法人) 日本温州総商会、事務局員
発表題名 (英語)	A Study of Migrants from Wenzhou, China living in Japan —Migration, Adaptation, Localization or Re-migration	
著者名	ZHENG LEJING	
会議名 (英語)	The 4th Next-Generation Global Workshop The Nation-States and Beyond: Private and Public Spheres under Globalization	
開催地 (国、市)	Korea, Seoul	
参加期間	2011 年 11 月 24 日～11 月 26 日	
<p>報告者は、京都大学グローバ COE 「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」と Seoul National University が共同主催の「The 4th Next-Generation Global Workshop The Nation-States and Beyond: Private and Public Spheres under Globalization」(2011 年 11 月 24 日～26 日)に参加し、発表を行った。</p> <p><発表内容></p> <p>本発表は、在日中国人社会の構成部分である在日温州人に注目し、彼らの日本移住史を掘り起こした上で、現在の生活実態を浮き彫りにすることを目的とする。</p> <p>今までの在日中国人研究に関しては、時期別に老華僑・新華僑、分野別に経済・文化・教育など、特定のグループを研究対象とするものが多い。こうした研究方法では、在日中国人の全体像が浮かびにくい。本発表は各時期、各分野の温州人を取り上げ、在日温州人というコミュニティの概観を通して、今までの在日中国人研究で見落とされてきた側面を見出そうと試みた。</p> <p><質疑応答></p> <p>会場の参加者より、以下のような質疑を受けました。</p> <ol style="list-style-type: none">① 日本への温州人移民の中で、労働者として渡来した人々は仲介機関を通して移動したか。② 温州人の日本移住過程において連鎖移民という現象が起こっているか。		

③ 在日温州人の仕事探しに関して、なぜ女性が男性より「求人雑誌等を通して自分で探し」の割合が高いのか。

さらに、アドバイザーの先生から「Suggestion to include the limitations of using the case of Wenzhouese migrating to Japan as opposed to other countries」という貴重なコメントをいただきました。

本ワークショップは、世界各国の研究者が一堂に集まり、活発な議論が繰り上げられた。特に研究の道に歩み始めたばかりの私にとって、今回のワークショップで諸先生方々から様々なコメントをいただき、貴重なブレインストーミングを体験しました。この機会に感謝いたします。

